

## 低品質の粗飼料を給与している妊娠後期の繁殖用雌肉用牛に対する DDGS の給与

### 1 飼料摂取量、ボディコンディションおよび繁殖成績への影響

#### Supplementation of corn dried distillers grains plus solubles to gestating beef cows fed low-quality forage: I. Altered intake behavior, body condition, and reproduction

V. C. Kennedy, M. L. Bauer, K. C. Swanson, and K. A. Vonnahme  
Journal of Animal Science, 94, pp. 240 - 247 (2016)

トウモロコシ稈（コーン・ストーバー）とトウモロコシ・サイレージを給与している妊娠後期の繁殖用雌肉用牛に対して、DDGS を補給した場合の影響について調査した。

試験には、妊娠後 201 日、体重  $674 \pm 17$  kg、BCS（ボディ・コンディション・スコア） $5.6 \pm 0.1$  の繁殖用経産牛（アンガスおよびアンガス×シンメンタル）を 27 頭用い、トウモロコシ稈とトウモロコシ・サイレージを自由摂取させる対照区に 15 頭、対照飼料とともに体重の 0.3% 量の DDGS を補給する試験区に 12 頭ずつ配して分娩後 8 週間まで飼育した。なお、分娩時までのトウモロコシ稈とトウモロコシ・サイレージの給与比率（原物）は妊娠後 201～245 日では 9 : 1、246～259 日では 8 : 2、260～269 日では 7 : 3 とした。また、分娩後は、両区とも同一の飼料（トウモロコシ稈 48 : トウモロコシ・サイレージ 30 : DD

GS 20）を給与した。

その結果、対照区では妊娠期間中に体重が有意に低下し、BCS も有意に低下した。一方、DDGS を補給した試験区では体重が有意に増加し、BCS には有意な変化は認められなかった。また、分娩子牛の体重は試験区（平均 43.3 kg）が対照区（平均 40.5 kg）より重い傾向を示した。なお、期間開始初期では、試験区の粗飼料摂取速度が対照区より有意に早かった。

分娩後の供試牛の体重変化、飼料摂取状況には試験区と対照区との間で有意な差は認められなかった。

これらの結果から、トウモロコシ稈とコーン・サイレージを給与している妊娠後期の繁殖用雌肉用牛に対する DDGS の補給は、適切なエネルギーおよびたん白質の補給源となり、体重や BCS の維持に対して有効であるものとみなされる。